

## 使用方法・葉面散布時

濃度は下記表をご参照下さい。散布間隔は1週間以上空けて葉面散布して下さい。

※アルカリ性農薬や石灰硫黄合剤、銅剤との混用及び、近接散布は避けて下さい。

夏季の高温時等、不適と思われる条件での使用は避けてください。

PKF32 葉面散布時 作物別使用方法			
作物	目的	散布濃度(倍)	散布時期
果菜類	花芽の充実、着果・結実促進、肥大促進	1000-2000	定植後(7~14日おき)
葉菜類	徒長防止、品質の向上	1000-2000	定植後(または本葉2~3枚時頃から)7~14日おき
根菜類	肥大促進、品質の向上	1000-2000	肥大初期から7~14日おき
果樹類	花芽の充実、着色向上、品質の向上	1000-2000	新葉の展開時期から30日おき
豆類	着果促進、莢数増加、品質の向上	1000-2000	開花初期から2~3回
穀類	粒肥大促進、登熟促進、品質向上	500-1000	出穂期から2~3回
茎菜類(アスパラガス)	根株の充実、養分転流促進	1000-2000	立茎後定期的に
いも類	養分転流促進、肥大促進、ツルボケ抑制	1000-2000	肥大初期から7~14日おき
花卉類	品質の向上	1000-2000	生育期全般(10~14日おき)
芝	根張り向上	100-200	春先、夏から秋にかけて2~3週間おき

## 使用方法・灌漑時

### ◆ 土耕栽培

5日~10日毎に10a当たり、0.5~1リットルのPKF32を500リットル以上の水に希釈して灌漑して下さい。他の液肥と混合して施用することもできます。

当社製品のカルシウム液肥であるカルパンチMIXとの原液混用同時施肥が可能です。 ※混用時は長時間放置せずに必ず使い切ってください。

### ◆ いちごの高設栽培・養液土耕栽培



使用濃度: 30ppm強(約10,000倍希釈)

原液タンク内での希釈倍率×給液時の希釈倍率=約10,000倍になるよう調製して下さい。

例: 原液タンク100リットル当たり約5kg(3.5リットル)のPKF32を投入し、

500倍希釈で給液して下さい。 ※カルシウムが入っていない方のタンクに調製して下さい。

### ◆ 果菜類、葉菜類、花卉類の養液栽培・養液土耕栽培



使用濃度: 40~50ppm(約6,000~8,000倍希釈)

原液タンク内での希釈倍率×給液時の希釈倍率=約6,000~8,000倍になるよう調製して下さい。

例: 原液タンク100リットル当たり約2.9kg(2リットル)のPKF32を投入し、

200倍希釈で給液して下さい。 ※カルシウムが入っていない方のタンクに調製して下さい。

さらに詳しい使用方法につきましてはお問合せ下さい。

## 保管上の注意

直射日光、高温多湿を避け、乳幼児の手の届かない場所で保管して下さい。

アグリワークス(株)では、原水分析を通じて農家様一人ひとりに合わせた処方を作成しております、お気軽にご相談下さい。

その他ご不明な点がございましたら、お取り扱いの代理店かアグリワークス(株)までお問合せ下さい。